



4月うぶやま天文台星空情報 2

今年最遠の満月を見よう



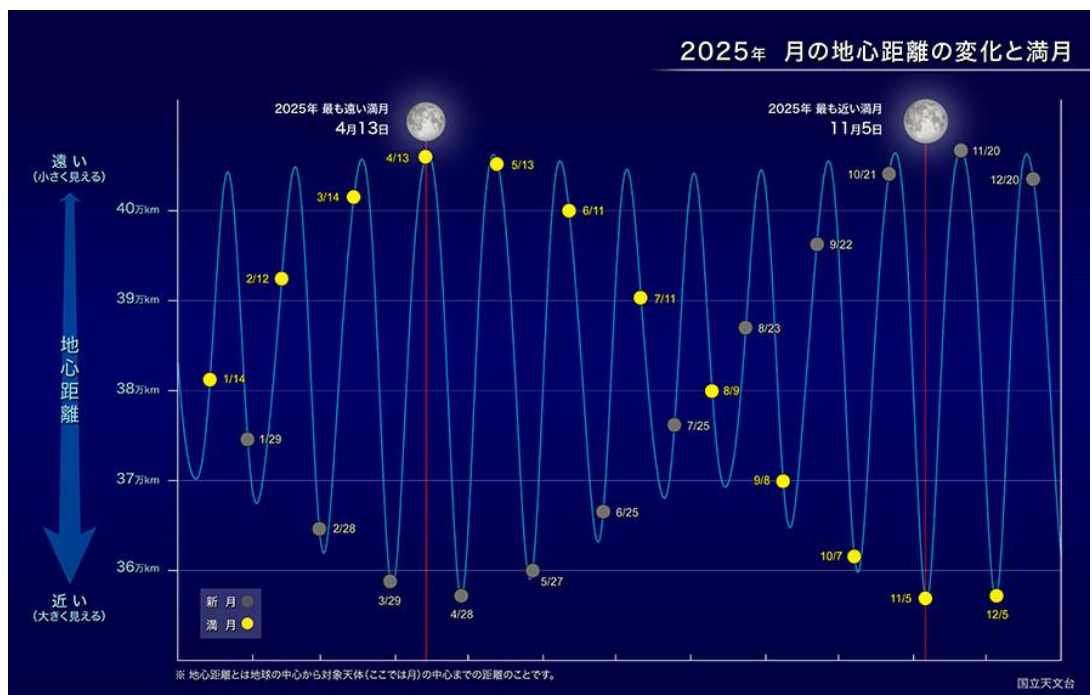
天空が広がるうぶやまの高原は、陽が長くなり、暖かい風が吹き始め、春が訪れ、桜が咲き始めました。宵の空には冬の星座が見え、それを追いかけるように春の星座が東から昇ってきます。

4月の星空情報の第2弾は、今年の地球から最も遠い満月、最小の満月という天文現象です。

地球の周りを公転する月の軌道は楕円形をしているため、地球と月の距離は常に一定ではありません。下の図は、月の地心距離が周期的に変化する様子を表しています。さらに、月の軌道も太陽や地球などの重力の影響を受けて変化するなど、複雑な仕組みが働いているため、一公転の中で、最近・最遠となる時の距離も一定ではなく変化しています。満月や新月となるタイミングを重ねると、下の図のように毎回異なる距離で起こっていることがわかります。

4月の満月は、2025年中の満月としては最も遠い位置で起こります。月は4月13日9時22分に満月となり、翌日の14日7時48分に遠地点を通過します。

満月のときの地心距離は約40万6000km、月の視直径は約29分25秒角です。(次ページ、続きます。)

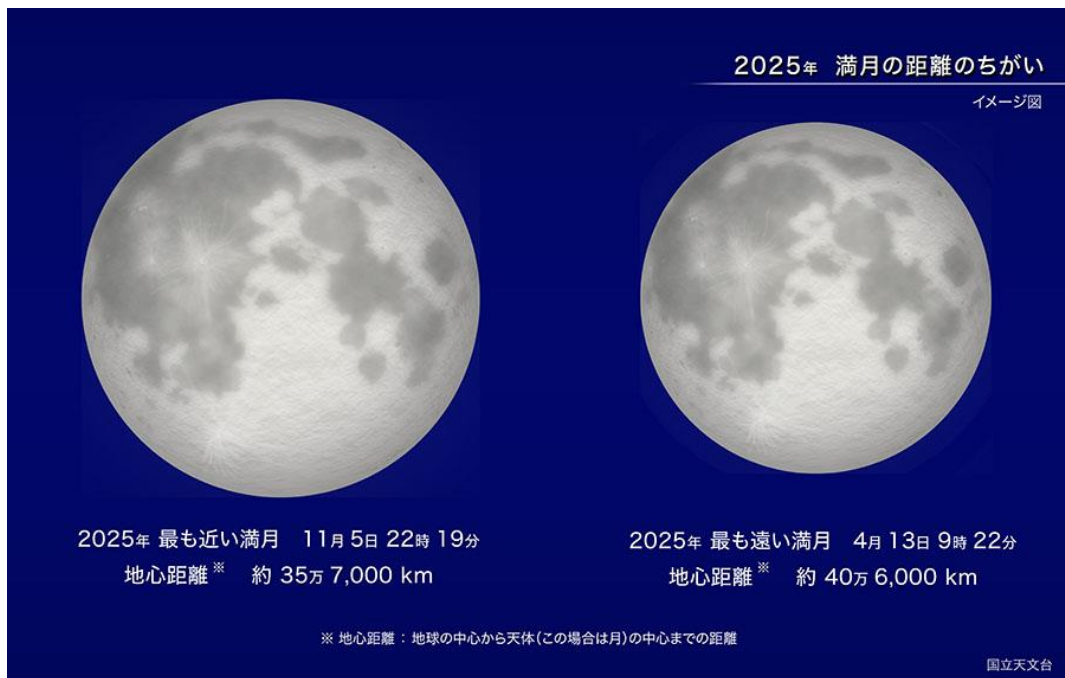


月の地心距離の変化と満月

今年、最も地球に近い位置で起こる満月は11月5日で、この時の地球からの地心距離は、約35万7000km、月の視直径は約33分28秒角です。

4月の今回の満月は、11月5日の満月に比べて視直径が約12%小さい(面積は約23%少ない)のです。

ずいぶん大きな違いに見えるでしょう。しかし、実際の夜空では、月を二つ並べて比較することはできないので、夜空の月を眺めただけでは大きさや明るさの違いに気づくのは難しいでしょう。



地球から最近の満月と最遠の満月の距離や大きさの違い